

環境経営レポート

2023年5月～2024年4月



『一人ひとりの意識改革・新たな創造に挑戦します』

 **博多金物株式会社**

2024年6月30日 発行

目 次

● 会社概要	1
● 組織図	2
● 環境経営方針	3
● 認定証・許可一覧	4
● 施設・設備の内容	5
● 処理工程図	6
● 受託した産業廃棄物の実績	7
● 環境経営目標(2024年度～2026 年度)	8
● 2023 年度 環境経営計画と取組結果の評価	9
● 2023 年度 環境経営目標の実績・取組結果とその評価	10
● 2024 年度 環境経営目標・環境経営計画	11
● 環境関連法規等の遵守結果	12
● 社会貢献活動	13
● 代表者による全体評価と見直し結果	14



会社概要

1. 事業者名および代表者名

博多金物 株式会社

代表取締役

白石 浩一

2. 所在地 (宮崎県延岡市大武町 INOBECH 内)

本社事務所 〒882-0024

宮崎県延岡市大武町 39 番地 71

リサイクルセンター 〒882-0024

宮崎県延岡市大武町 39 番地 69

破砕工場 〒882-0024

宮崎県延岡市大武町 39 番地 68

3. 環境管理責任者

事務局

連絡先

専務取締役 渡邊 亮介

総務部 白石 弥生

白石 弥生 (EA-21 事務局)

TEL 0982-35-6385

FAX 0982-35-6387

E-mail shiraishi@hakatakanamono.jp



4. 創業年月日

昭和33年 10 月17日

本社事務所

5. エコアクション 21 認証・登録

認証・登録番号 0008854

認証登録日

2012年11月2日

更新登録日

2022 年11月2日

有効期限

2024 年11月1日

範囲

全社・全組織・全活動

6. 事業の内容

- 産業廃棄物収集運搬業(特別管理産業廃棄物を含む)
- 産業廃棄物処分業(中間処理業)
- 金属スクラップ加工処理業
- 故非鉄金属・故機械・電気器具類の売買業
- 解体工事に伴い発生する廃棄物の分別・再資源化の請負業

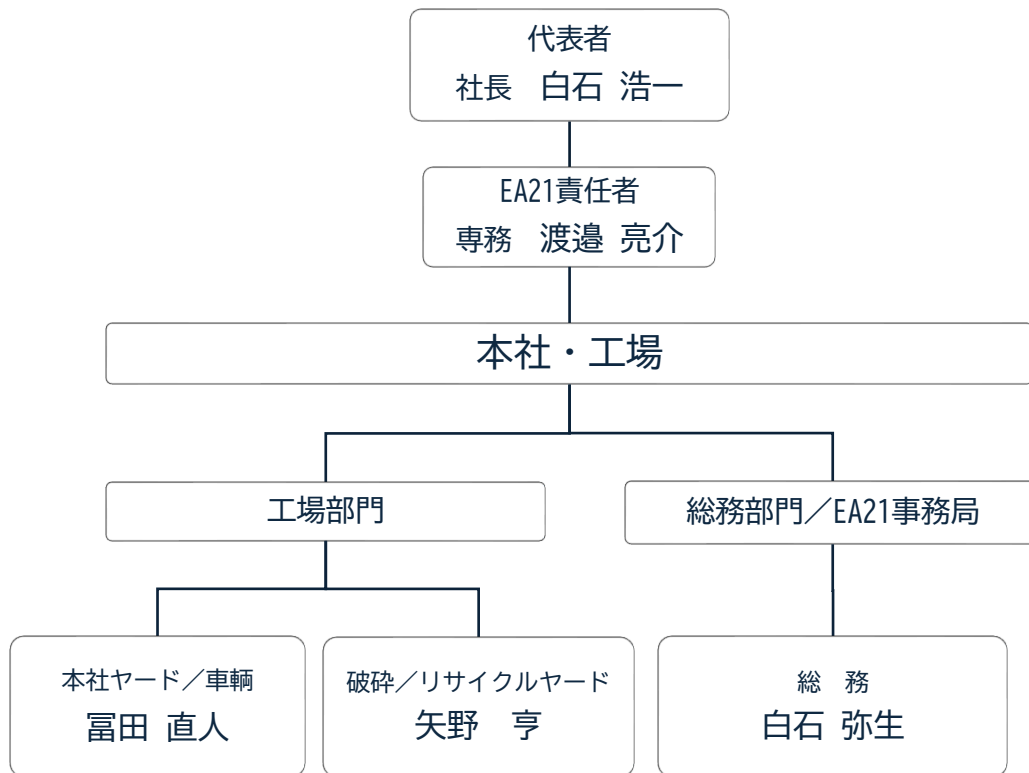


工場(ヤード)

7. 事業規模

項目	単位	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
資本金	万円	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600
売上高	百万円	930	1,244	2,247	2,043	2,114
従業員数	人	17	17	17	17	19
床面積	m ²	3,054	3,054	3,054	3,054	3,054
敷地面積	m ²	9,409	9,409	9,409	9,409	9,409

組 織 図



	役割・責任・権限
代表者 社長 白石 浩一	1. 経営資源の準備 2. 推進組織の決定 3. 環境方針の策定 4. 環境目標及び環境活動計画の承認 5. 定期的な全体の評価と見直し指示 6. 環境活動レポートの承認
EA21 責任者 専務 渡邊 亮介	1. EA21システムの確立、実施推進、維持管理 2. 環境への負荷及び取り組みへの自己チェックの承認 3. システム全体の運用状況を社長へ報告する 4. 環境目標及び環境活動計画の策定 5. 環境活動レポートの作成 6. EA21に関する実績把握と報告 7. 利害関係者からの苦情要望等の処理と連絡 8. 環境目標/活動計画結果管理の定期的な評価 9. 問題点発生時の是正/予防処置指示と内容承認 10. 環境関連法規の取りまとめ及び遵守状況確認 11. 教育、訓練計画の策定と実施(緊急時対応訓練含む)
工場部門 本社ヤード・車輛担当 富田 直人	1. 車輛の点検 2. 運行記録管理 3. 雨水貯蓄管理
工場部門 破碎／リサイクルヤード担当 矢野 亨	1. 破碎工場電気使用法管理 2. 重機の点検 3. 環境整備・訓練
総務部門／EA21 事務局 EA21事務局 白石 弥生	1. 環境活動計画の実施 2. 問題点の是正処置 3. 環境活動の実施 4. 環境文書及び記録の作成、管理

環境経営方針

基本理念

博多金物株式会社は、循環型社会の形成と持続可能な発展のために環境の保全に努め、環境にやさしい企業活動により地域に貢献すると同時に、社員の生活が幸福なものになるよう企業活動を行うことを基本理念とする。

基本方針

1. 博多金物株式会社は、金属スクラップ及び産業廃棄物の処理事業を行う中で可能な限りのリサイクルに努め、環境保全に貢献する。
2. 環境保全活動では、自社の特徴である金属スクラップの加工処理を中心に次の項目に取り組む。
 - ① 電気・燃料の消費に伴う二酸化炭素の削減及び節水への意識をもちつつ、その使用に対する経営効果の向上を目指す。
 - ② 廃棄物の削減及びリサイクルの促進に努める。
 - ③ 現場改善を日々行い、効率的かつ環境負荷の少ないプロセスの向上を推進する。
3. 受託した産業廃棄物の中間処理では、再資源化の向上に努め、収集運搬では、収集運搬車両のエコドライブを実践し、省エネと排気ガスの抑制に取り組む。
4. 環境に関する法令及び法規制を遵守する。
5. 環境経営方針は、当社のために働くすべての人にも周知を図り、一般の人々が入手可能なようにする。
6. 環境への取り組みについて、環境活動レポートを作成し公表する。



制定日 平成 24年4月17日

改定日 令和 2年11月1日

博多金物株式会社
代表取締役

白石 浩一

認定証・許可一覧

古物商	交付	昭和40年4月8日	登録番号	95111000 第3384号
	事業の区分	行商 = する		
計量証明事業	登録	平成元年6月6日	登録番号	第 43 号 (宮崎県知事)
	事業の区分	質量にかかる計量証明の事業		
計量器修理事業	登録	昭和63年 5 月 31 日	登録番号	第 152 号 (宮崎県知事)
	事業の区分	質量計第四類		
電子マニフェスト加入者番号		処分業 3011811	収集運搬業 2001394	
産業廃棄物 中間処理業	許可日	令和元年 8 月 25 日	許可番号	第 04528047880 号(宮崎県知事)
	有効期限	令和 6 年 8 月 24 日	事業区分	中間処理業(圧縮・切断、剥離)
	種類	《圧縮・切断》	金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、ゴムくず、廃プラスチック類、木くず(5種類)	
		《剥離》	金属くず、廃プラスチック類(2種類)	
産業廃棄物 収集運搬業 (宮崎県)	許可日	令和 4 年 5 月 30 日	許可番号	第 04518047880 号 (宮崎県知事)
	有効期限	令和 9 年 5 月 29 日	事業範囲	積替え・保管の有無 あり
	積替え保管の 上限	①廃プラスチック類、金属くず(廃バッテリーに限る。)9.41 m ³ ②金属くず、汚泥(廃乾電池に限る。)0.056 m ³ ③ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、金属くず(廃蛍光管に限る。)0.19m ³		
	種類	燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリート及び陶磁器くず、鋳さい、がれき類、ばいじん(15種類)		
産業廃棄物 収集運搬業 (山口県)	許可日	令和元年 9 月 15 日	許可番号	第 03500047880 号 (山口県知事)
	有効期限	令和 6 年 9 月 14 日	事業範囲	積替え・保管の有無 なし
	種類	燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリート及び陶磁器くず、鋳さい、がれき類、ばいじん(15種類)		
産業廃棄物 収集運搬業 (北九州市)	許可日	令和 5 年 6 月 18 日	許可番号	第 07600047880 号 (北九州市長)
	有効期限	令和 10 年 6 月 17 日	事業範囲	積替え・保管の有無 なし
	種類	燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、鋳さい、がれき類、ダスト類(15種類)		
特別管理産業廃棄物 収集運搬業 (宮崎県)	許可日	令和 4 年 5 月 21 日	許可番号	第 04568047880 号 (宮崎県知事)
	有効期限	令和 9 年 5 月 20 日	事業範囲	積替え・保管の有無 あり
	積替え保管の 上限	①廃酸(廃バッテリーに含まれる水素イオン濃度指数 2.0 以下のもの)9.41 m ³ ②廃酸(水素イオン濃度指数 2.0 以下のもの)0.4 m ³ ③廃アルカリ(水素イオン濃度指数 12.5 以上のもの)0.4 m ³		
	種類	燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、ばいじん、廃石綿等(7種類)		
特別管理産業廃棄物 収集運搬業 (山口県)	許可日	令和 5 年 3 月 8 日	許可番号	第 03550047880 号 (山口県知事)
	有効期限	令和 10 年 3 月 7 日	事業範囲	積替え・保管の有無 なし
	種類	燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、ばいじん、廃石綿等(7種類)		
特別管理産業廃棄物 収集運搬業 (北九州市)	許可日	令和 5 年 6 月 18 日	許可番号	第 07650047880 号 (北九州市長)
	有効期限	令和 10 年 6 月 17 日	事業範囲	積替え・保管の有無 なし
	種類	燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、ダスト類(6種類)		
第一種フロン類 回収業	登録	令和元年 9 月 4 日	登録番号	第 4570100736 号(宮崎県知事)
	事業の区分	第一種フロン類の回収		

施設・設備の内容

中間処理施設・能力

種類	所在地		処理能力ほか		
圧縮・切断施設	延岡市大武町 39 番地71		20 t / 日		
剥離	延岡市大武町 39 番地 69		3 t / 日		
積替え保管	延岡市大武町 39 番地 69		容器内保管		
	面積	種類		保管上限	
	産業 廃棄物	8.976 m ²	廃バッテリー		9.41 m ³
		2.8985 m ²	廃乾電池		0.056 m ³
		2.8985 m ²	廃蛍光管		0.19 m ³
	特別管理 産業 廃棄物	8.976 m ²	廃酸(廃バッテリーに含まれるもの)		9.41 m ³
		3.2725 m ²	廃酸(水素イオン濃度指数 2.0 以下)		0.4 m ³
		2.5245 m ²	廃アルカリ(水素イオン濃度指数 12.5 以上)		0.4 m ³



運搬車両

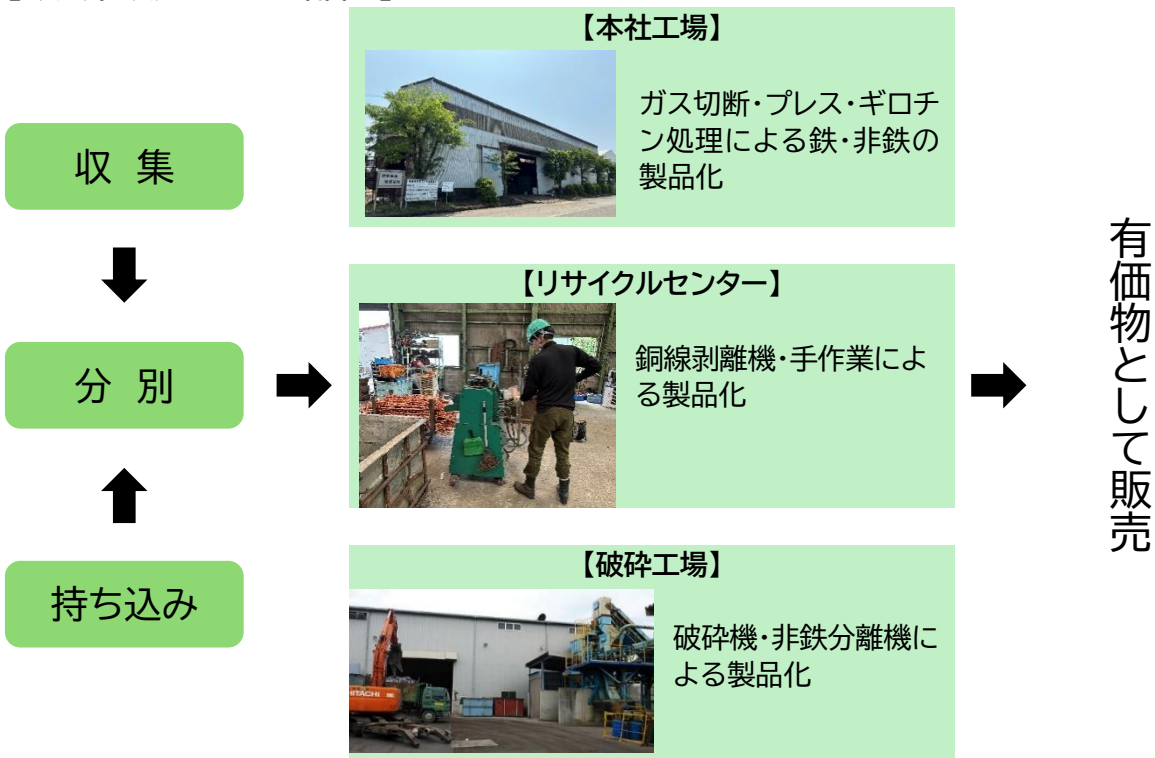
登録番号	トン数	車両名	収集運搬業用
宮崎 100 は 4354	14.4t	キャブオーバ	○
宮崎 100 せ 2032	2.6t	キャブオーバ	○
宮崎 100 は 908	8.7t	キャブオーバ	○
宮崎 480 と 9437	0.35t	キャブオーバ	○
宮崎 400 せ 8478	2.5t	キャブオーバ	○
宮崎 100 は 2246	8.0t	キャブオーバ	○
宮崎 100 は 4081	6.6t	キャブオーバ	○
宮崎 100 は 846	10.1t	ダンプ	○
宮崎 100 は 2001	10.1t	ダンプ	○
宮崎 100 は 4898	9.0t	ダンプ	○
宮崎 41 ね 6234	0.35t	バン	○
宮崎 100 は 4635	12t	脱着装置付コンテナ専用車	○
宮崎 100 す 404	3.75t	脱着装置付コンテナ専用車	○
宮崎 100 す 405	3.75t	脱着装置付コンテナ専用車	○

主要設備

本社ヤード	400 t シャープレス	1基	600 t ギロチンシャー	1基
	80 t 電気式計量器	1基	40 t 普通式計量器	1基
	4 t フォークリフト	1基	荷役用グラップルユンボ	1基
	5 t 天井走行クレーン	1基	3 t 天井走行クレーン	1基
	リフティングマグネット	1基	0.1t解体用ユンボ	1基
リサイクル センター	2.8 t 天井走行クレーン	1基	2 t 天井走行クレーン	1基
	30 t 電気式計量器	1基	2.5 t フォークリフト	1基
	1 t フォークリフト	1基	被覆電線解体機	2 基
	2 t グラップルリフト	1基		
破碎工場	600型シュレッダー	1基	非鉄選別機	1基
	7.8 t テルハ	1基	1 m ³ ホイルローダー	1基
	0.7 t 解体用ユンボ	1基	0.3 t 解体荷役用ユンボ	1基
	荷役用スクラップハンドラー	1基	リフティングマグネット	1基
	3 t フォークリフト	1基		

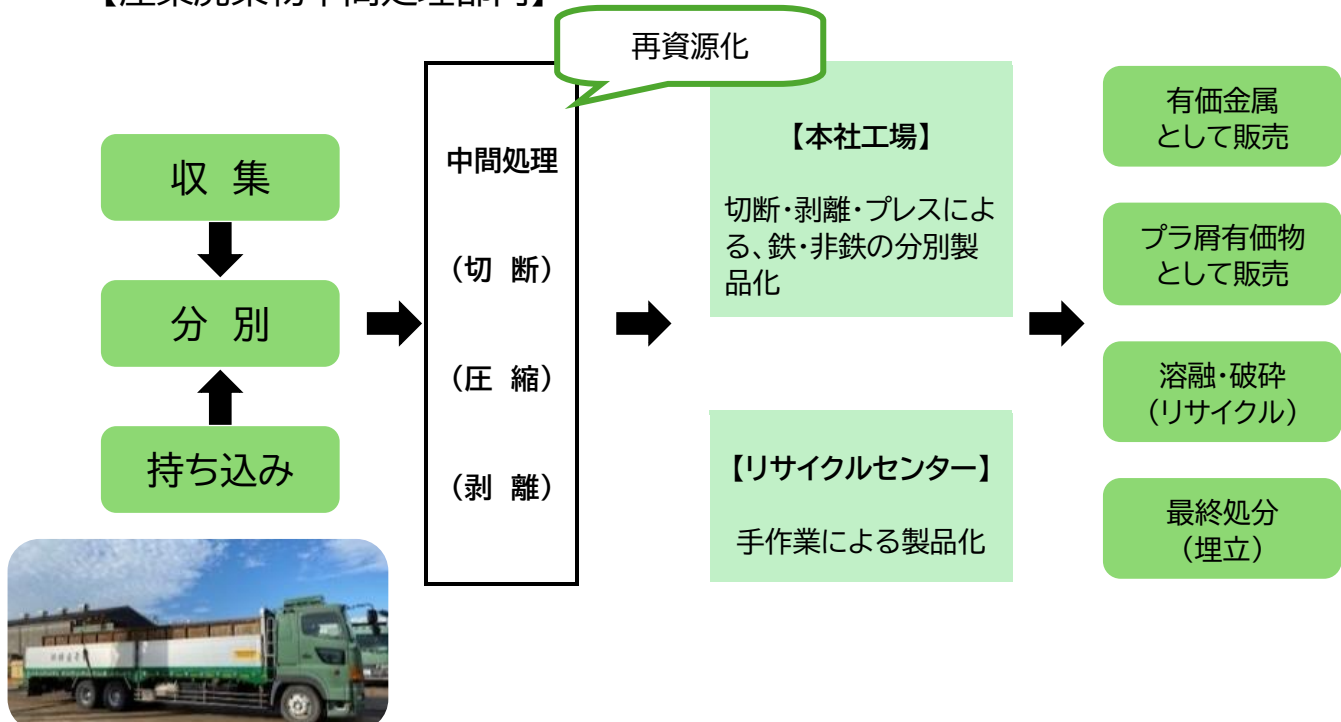
処 理 工 程 図

【鉄・非鉄処理加工部門】



再生資源の回収・収集等	再生資源の種類	単位	回収・収集等運搬量	
	金属	t	28,068.62	
再生資源の再資源化等	種類	処理または加工等方法	単位	再資源化量
	金属	切断・圧縮・破碎・剥離	t	28,251.97

【産業廃棄物中間処理部門】



受託した産業廃棄物の実績

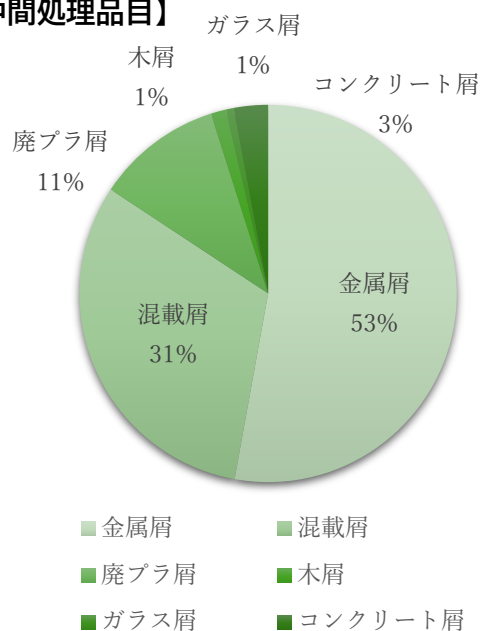
2023 年（ 2023 年5月 ～ 2024 年4月 ）

処理方法等		廃棄物等種類	処分方法等	処理量(t)
(i)収集運搬		石膏ボード		9.70
		廃油		0.18
		廃酸・廃アルカリ		0.80
		金属・廃プラ・木・ガラス・コンクリート屑		0.04
収集運搬量合計				10.72
(ii)中間処理		金属屑	切断・圧縮	440.92
		廃プラ屑	切断・圧縮・剥離	90.22
		ガラス屑	切断・圧縮	5.50
		木屑	切断	10.90
		コンクリート屑	切断	24.40
		混載屑	切断・圧縮・剥離	262.28
	うち 再資源化等	金属屑	再生(売却)	440.92
		廃プラ屑	再生(売却)	18.36
		再資源化等量小計		
中間処理合計				834.30

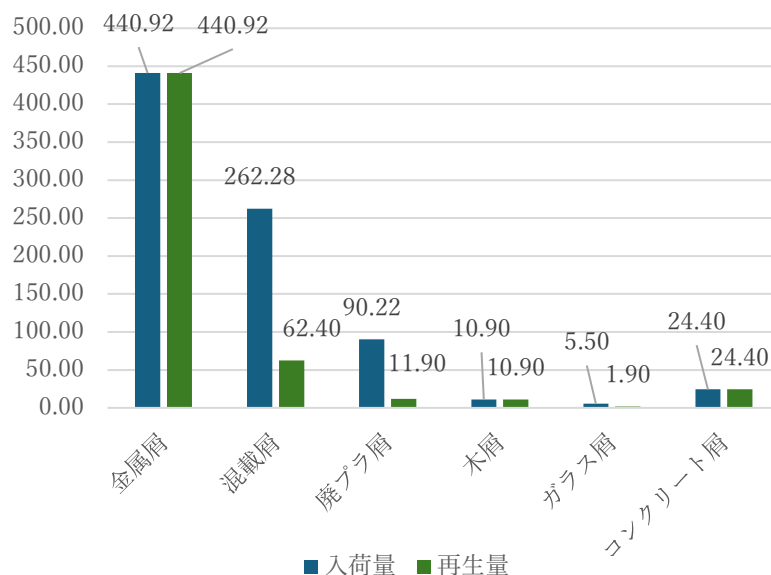
(ⅳ)中間処理後の産業廃棄物	最終処分	廃プラ屑	安定型埋立(委託)	122.5
		廃プラ屑	管理型埋立(委託)	46.20
		混載屑	安定型埋立(委託)	93.40
		最終処分量小計		262.10
	再資源化等	木屑	破碎後、再利用	10.90
		コンクリート屑	破碎後、再利用	24.40
		廃プラ屑	熔融後、原材料化	11.90
		ガラス屑	熔融後、原材料化	1.90
		混載屑	再生(売却)	62.40
		再資源化等量小計		111.50
中間処理後処分量合計			373.60	

5 月末残 1.34 t

【中間処理品目】



【入荷量・出荷量】



環境経営目標

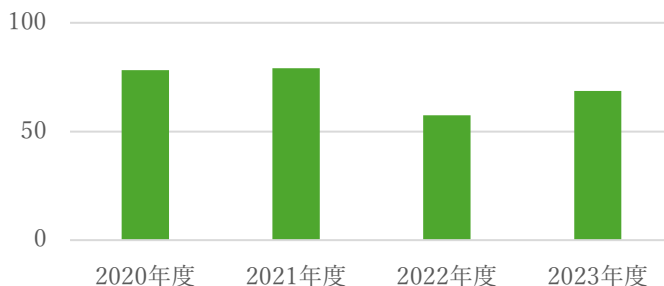
取組み項目 (目標項目)(単位)	実施区	年 度 別 環 境 目 標				
		基準値 (2018 年～2020 年 の最大値)	2021 年度 (2021 年 05 月～ 2022 年 04 月)	2022 年度 (2022 年 05 月～ 2023 年 04 月)	2023 年度 (中期の到達目標) (2023 年 05 月～ 2024 年 04 月)	
1. 二酸化炭素排出量の削減 (Kg-CO2／月)	全体	43,880.90	43,880.90	43,880.90	43,880.90	
	①電気使用量の削減 KWh/出荷量 1,000 kg		削減率⇒	1.0	2.0	3.0
	参考使用量 (KWh／月)	全体	18.1	17.9	17.7	17.6
		参考 使用量	36,001.50	36,001.50	36,001.50	36,001.50
	②ガソリン使用量の削減 (L ／月)	全体	350.4	350.4	350.4	350.4
	③軽油使用量の削減 (L ／月)	全体	11,828.40	11,828.40	11,828.40	11,828.40
	2 廃棄物の削減	①一般廃棄物の削減 (kg ／月)		削減率⇒	1.0	2.0
事務所		38.3	37.9	37.5	37.2	
②中間処理後の再資源化率向上		工場	78.20%	78.2%以上	79.1%以上	60%以上
3. 水資源使用量の削減 (年間水資源総使用量) (m ³ ／月)	全体	46.8	46.8	55.5	46.8	
4. 環境保全の取組推進 (ボランティア活動の実施)	全体	10 回/年	10 回/年以上	10 回/年以上	10 回/年以上	

- 企業活動が活発になると、電気・軽油・水の使用量が増加するため、これらの項目は、過去3年間の最高値を目標値としつつ、同じ資源量でさらに経営成果を上げることを目指すこととする。
- 電気については、出荷量当たりの電気使用量を算出し、この数値の削減を目指していく。
- 一般廃棄物については、分別と減量の努力を続けるために、毎年1%ずつの削減目標を掲げる。
- 産業廃棄物の再資源化率は、年々向上することを目指すため、前年の数値以上を目標とする。

2023 年度 環境経営計画と取組結果の評価

電気使用量の削減	評価	
① 破碎工場の電気使用の平均化 ② エアコン使用時の適正温度設定と扇風機併用 ③ こまめな消灯・節電意識を持って行動	○	デマンド計により、電力のピークカットがしっかりと出来ていた。日中も不要な電気をしっかりと消せており、一人ひとりの節電意識が高いことを評価している。
ガソリン使用量の削減		
① エコドライブの徹底 ② アイドリングストップ・法定速度の遵守 ③ 低燃費な社用車の使用	○	営業車をハイブリッド車に入れ替えた為、燃費が向上した。その上、エコドライブもしっかりと実行してくれたことにより、ガソリン使用量の大幅な削減に成功した。
軽油使用量の削減		
① エコドライブの徹底(アイドリングストップ) ② 運搬計画(経路・時間帯)の工夫 ③ 低速ギアの使用制限(回転数を上げない) ④ 空気圧のこまめな点検	○	運行ルートを事前に決め、無駄なく運搬業務ができていた。エコドライブもしっかり出来ていた。今後も継続してほしい。
廃棄物の削減		
一般廃棄物 ① 段ボール・冊子類のリサイクル ② 使用済み封筒・コピー裏紙の再利用 ③ 休憩室のゴミの分別の徹底	○	ゴミがしっかりと分別されていた。また、裏紙の利用も徹底されていて良かったと思う。
中間処理廃棄物 ① 入荷廃棄物の分別・再資源化の促進 ② 廃棄量最少を目標にした中間処理 ③ マニフェストの管理の徹底と定期的集計作業	○	廃棄物の細かい分別解体についてはしっかりと行っていた。マニフェスト管理についてもきれいに整理されており大変良かったと思う。

【中間処理後の再資源化率】



水資源使用量の削減		
① 雨水貯留用のドラム缶を随時増やす ② 節水意識を持った行動 (水の出っぱなしをしない・蛇口はしっかり閉める)	×	結果的には未達成となったが、業務上しかたのないことではあるので、引き続き意識を高く持って取り組んで欲しい。
環境保全活動の取組推進 (ボランティア活動の実施)		
① 自転車通勤の推進 ② ボランティア活動に積極参加 ③ 草刈りを定期的に行う	○	ボランティアも目標回数を達成して良かった。定期的な草刈りも行い、環境美化もしっかり出来ていて良かったと思う。

2023 年度 環境経営目標の実績・取組結果とその評価

取組項目	実施区	2023 年 5 月～2024 年 4 月		目標の実績 ○・× 評価	取組と評価
		目標	実績		
1.二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO₂)	全体	526,570.8	413,605.5	○	1 年間を通して全て達成出来たので大変満足している。引き続き社員全員が高い意識を持って取り組んで欲しい。
①電気使用量の削減 (総電気使用量) (kwh)	全体	432,018.0	311,795.0	○	工場の稼働の効率化を図った結果、数値が大きく下回り、大変満足している。生産・稼働状況に合わせた節電を心掛けていきたい。
出荷量当たりの 使用量指数		211.2	150.1	○	
②ガソリン使用量の 削減 (L)	全体	4,204.8	1,633.4	○	営業車をハイブリッド車に入れ替え、燃費も大変良くなったが、一人ひとりの意識も高かったと評価する。各自、出来ることはしっかり取り組んで欲しい。
③軽油使用量の削減 (L)	全体	141,940.8	116,501.3	○	こまめなアイドリングストップを実施した結果であり、評価する。今後もしっかり取り組んで欲しい。
2.廃棄物の削減					年度末の未達成はあったが、全体的には目標が達成出来てよかった。リサイクルできるものは極力捨てない努力をしていきたい。
①一般廃棄物の削減 (kg)	全体	446.4	362.0	○	細かい分別、解体を実施した結果が出たと思う。さらに向上出来るように努力していきたい。
②中間処理後の再資源化率向上	工場	60%以上	68.6%	○	
3.水資源使用量の削減					解体工事後のスクラップが多量に搬入されたため、埃の飛散防止用に水を使用しなければならず、目標は未達成となったが、近隣へのクレーム対策だったので仕方がないと考えている。日々の手洗い等での節水はしっかりと出来ており、その点は評価している。
(年間水資源総使用量) (m ³)	全体	561.6	658.0	×	
4.環境保全の取組推進					今年度もボランティアに関しては目標達成出来てよかった。引き続き地域と良い関係を築いていきたい。
(ボランティア活動の実施)	全体	10	11	○	

* 購買電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力の調整後排出係数 0.347 kg-CO₂/kWh(2020 年 1 月環境省公表)を使用

* LPG を含む二酸化炭素総排出量は 414,655.5 kg-CO₂/kWh です



2024年度 環境経営目標

二酸化炭素排出量 40,242.4Kg-CO ₂ /月	電気使用量 35,505.20kWh/月
ガソリン使用量 313.4/月	軽油使用量 10,450.3L/月
一般廃棄物量 46.5Kg/月	産業廃棄物再資源化率 68.6%以上
水資源使用量 54.2 m ³ /月	ボランティア活動 10 回以上/年

2024年度 環境経営計画

取組み項目	当年度の活動計画		
(目標項目)(単位)	活動内容	推進部門 責任者	実施 スケジュール
1. 二酸化炭素排出量の削減 (Kg-CO ₂)	実施スケジュールの年間は、5月～翌年4月とします		
①電機使用量の削減 (総電気使用) (KWh)	①破碎工場の電気使用の平均化 ②エアコンフィルターの定期清掃 ③不要時の消灯の徹底	渡邊亮介 矢野 亨	年間
②ガソリン使用量の削減 (L)	①エコドライブの徹底 アイドリングストップ・法定速度遵守 ②リフト使用の工夫	富田直人	年間
③軽油使用量の削減 (L)	①エコドライブの徹底(アイドリングストップ) ②低速ギアの使用制限(回数を上げない) ③運行記録作成(走行距離と給油の確認) ④車輛の順次入れ替え	富田直人	年間
2. 廃棄物の削減	①一般廃棄物の削減 (Kg)	白石弥生	年間
	②中間処理後の 再資源化率向上	渡邊亮介	年間
3. 水資源使用量の削減 (年間水資源総使用量)	①雨水貯留用ドラム缶を随時増やす ②洗車時・手洗い時の節水	富田直人	年間
4. 環境保全の取組促進 (ボランティア活動の実施)	①緑化運動 ②消防活動・地域活動に積極参加 ③草取りを定期的に行う	渡邊亮介 矢野 亨	年間

環境関連法規等の遵守結果

環境関連法規への違反、訴訟はありません。また、関係当局からの違反等の指摘もありません。下記関連法規一覧表を元にチェックしました。

当社に適用される法規等、現在まで遵守しており、遵守状況は環境管理責任者が8月・11月・2月・5月の年4回確認し、改訂があった場合は必要に応じてその都度改訂します。

2023 年5月確認	評価の結果 ○・×
1. 廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃掃法)	○
2. 容器包装リサイクル法	○
3. 使用済み自動車の再資源化に関する法律(自動車リサイクル法)	—
4. 特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律(オフロード法)	○
5. 環境基本法	○
6. 計量法	○
7. 消防法	○
8. フロン排出抑制法	○
9. 宮崎県環境基本条例・延岡市環境基本条例	○
10. 道路交通法	○

社会貢献活動

2024年1月15日 SDGs 宣言を行いました

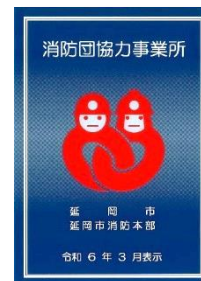
項目	関連する SDGs のゴール	SDGs 達成に向けた取組
自然環境・生物多様性の保全	  	金属スクラップの加工処理において廃棄物の削減及びリサイクルの促進を実施しています。産業廃棄物の中間処理において、資源循環型企業を目指し、再資源化率の向上に努めています。
責任ある企業行動	  	環境省制定の「エコアクション21」の認定を受け、社内照明のLED化や収集運搬車輛のエコドライブを実施し、会社全体で電気・燃料の消費に伴うCO ₂ の削減に取り組んでいます。
地域への貢献	  	地域雇用を積極的に行い、安定した雇用の創出・働きやすい職場づくりを実現しています。また、消防団協力事業所認定を受け、地域の有事の際はいかなる時も駆けつけます。

企業活動を通じて、社会課題の解決に取り組み、SDGs 達成に貢献します。



2024年3月19日 消防協力事業所認定

消防団協力事業所の認定がさらに2年間延長されました。今後も地域の消防団活動に協力を行います。



新入社員研修として環境美化活動を行いました



循環型社会の形成と環境保全に努めるため、これからも社員一丸となって頑張ります！

代表者による全体評価と見直し結果

2023 年5月、新型コロナウイルスの5類移行に伴い社会経済活動に活気が戻り始めた。インバウンドの増加など観光業や飲食業にも喜ばしいニュースが聞かれるようになった反面、ロシア・ウクライナ情勢に起因する物価の上昇・光熱費・原材料費の高騰など会社を取り巻く環境は厳しいものであった。

そのような状況下で、弊社は昨年度、過去最高の業績を上げることができたことに感謝する。全社員の工夫や節約の意識、細かな配慮や努力の表れだと評価している。今後も慢心することなく努力を続けていきたいと思う。

前回、産業廃棄物の再生率がそれまでに比べ下がってしまった。それは厳しい経営環境の中で、各社が有価物と産業廃棄物の細かな分別を行うようになったことが主なる要因だった。そこで改めてさらなる向上を目指し、目標を「前年度を超える再生率」とし、新たな努力を重ね今回達成できたことは非常に良かったと思う。社会全体で循環型社会を目指しつつ、さらに弊社も目標値を上げながら達成していけるように努めていきたいと考えている。

今年度は水資源の使用量が目標未達成となってしまったが、解体に伴うスクラップが多く搬入されたため、作業中の埃の飛散防止に、通常以上の使用量となってしまったので、仕方なかったと思っている。一方でそれでももっとできる改善方法はないか全員で考えながら業務にあたってほしいとも願っている。

今後も厳しい状況は続くと思われるが、社員一丸となって目標達成に向けて頑張っていきたいと思う。

循環型社会の実現と環境保全のため

「一人ひとりの意識改革・新たな創造に挑戦します」

